

沖縄労働局発表
平成24年5月25日

【照会先】
労働基準部 健康安全課
課長 稲毛 健一
労働衛生専門官 南 隆功
電話:098 (868) 4402

平成23年の熱中症による労働災害死傷者数は4人
～ 患者が急増する6月を前に熱中症予防対策を呼びかけ～

- 1 平成23年の県内の熱中症による労働災害による死傷者数は4人であり、昨年と同数でした。なお、死亡者数は平成20年以降3年ぶりに0人となりました。
- 2 県内の過去10年間(平成14年から平成23年)の熱中症による休業4日以上の死傷者数は41人(うち死亡者数は6人)となっています。
- 3 過去10年間の熱中症による労働災害を業種別にみると、屋外での作業が多い建設業が最も多く、死傷災害は全体の約6割(死亡者数は6人中5人)を占めています。また、発生時期(月)別にみると、全体の約7割が7月から8月にかけて発生していますが、6月や9月にも死傷災害が発生(22.4%)しています。
- 4 沖縄气象台によると、週平均気温がおおむね28℃以上になる6月第3週から9月第3週あたりに熱中症患者が増加する傾向にあることから、この期間を中心に職場での熱中症予防対策を行うことが必要です。
- 5 沖縄労働局は、職場での熱中症予防対策として、WBGT値(暑さ指数)の測定を通じ職場の暑熱の状況を確認するなど、熱中症予防対策を呼びかけています。

沖縄労働局・労働基準監督署の対応

職場での熱中症予防の効果的な取組は以下のとおりです。

- (1) 自覚症状の有無にかかわらず、水分・塩分を摂取する。
- (2) 熱中症の発症に影響を与えるおそれのある、糖尿病などの疾患がある労働者への健康管理を行う。
- (3) 熱への順化期間(熱に慣れ、その環境に適應する期間)を計画的に設定する。
- (4) WBGT値(暑さ指数)を測定することなどによって、職場の暑熱の状況を把握し、作業環境や作業、健康の管理を行う。

今年の夏は、平年同様に晴れの日が多く、暑さが予想されていることから、本年も関係団体への要請、労働基準監督署による事業場への指導、ポスターやパンフレットの配布などの取組を推進していきます。

資料

- (1) 職場における熱中症の発生状況等について（沖縄）
- (2) 熱中症を防ごう！（パンフレット）

参考

平成 24 年の職場における熱中症予防対策の重点的な実施についての概要

1. 建設業や、建設現場に付随して行う警備業においては、職場での熱中症予防対策を実施し、特に次の 4 項目を重点事項とすること。
 - (1) W B G T 基準値を超えることが予想される場合には、簡易な屋根の設置、スポットクーラーの使用、単独作業の回避を行うとともに、作業時間の見直しを行うこと。
作業時間については、特に、7、8月の14時から17時の炎天下等でW B G T 値が基準値を大幅に超える場合には、原則作業を行わないこととすることも含めて見直しを図ること。
 - (2) 作業者が睡眠不足、体調不良、前日に飲酒、朝食が未摂取、感冒等による発熱下痢等による脱水等の場合、熱中症の発症に影響を与えるおそれがあることから作業者に対して日常の健康管理について指導するほか、朝礼の際にその状態が顕著にみられる作業者については、作業場所の変更や作業転換等を行うこと。
 - (3) 管理・監督者が頻繁に巡視を行う、朝礼等の際に注意喚起を行う等により、作業者に、自覚症状の有無に関わらず水分・塩分を定期的に摂取させること。
 - (4) 高温多湿作業場所で初めて作業する場合には、順化期間を設ける等配慮すること。
2. 製造業においては、職場での熱中症予防対策を実施し、特に次の 2 項目を重点事項とすること。
 - (1) W B G T 値について計測等を行い、必要に応じ作業計画の見直し等を行うこと。
 - (2) 管理・監督者が頻繁に巡視を行う、朝礼等の際に注意喚起を行う等により、作業者に、自覚症状の有無にかかわらず水分・塩分を定期的に摂取させること。
3. 初夏においては、熱への順化が十分行われていないことや労働衛生教育が十分でないと考えられるので、基本対策を早期に実施すること。

熱中症とは

高温多湿な環境下において、体内の水分及び塩分(ナトリウム等)のバランスが崩れたり、体内の調整機能が破綻するなどして、発症する障害の総称。

めまい・失神、筋肉痛・筋肉の硬直、大量の発汗、頭痛・気分の不快・吐き気・嘔吐（おうと）・倦怠（けんたい）感・虚脱感、意識障害・痙攣（けいれん）・手足の運動障害、高体温などの症状が現れます。

資料等を厚生労働省HPからダウンロード出来ます。

- [職場における熱中症による死亡災害の発生状況\(平成 23 年\)について \(PDF:198KB\)](#)
- [職場における熱中症の予防について\(H21.6.19 付け基発第 0619001 号\) \(PDF:500KB\)](#)
- [平成 24 年の職場での熱中症予防対策の重点的な実施について\(H24.5.18 付け基安発 0518 第 1 号\) \(PDF:526KB\)](#)
- [熱中症を防ごう！（パンフレット）\(PDF:1729KB\)](#)

パンフレットの 1 ページ目はそのままポスターとしてご利用になれます。

職場における熱中症の発生状況等について（沖縄）

職場における熱中症の発生状況について

1. 平成23年の「職場における熱中症の発生状況」について

休業4日以上死傷者は4人（死亡0人）（平成22年4人（死亡1人））であった。業種別にみると「建設業」2人、「運送業」1人、「その他」1人であった。

2. 職場における熱中症の発生の傾向

平成14年から平成23年までの10年間の「職場における熱中症の発生状況」について、休業4日以上死傷者は41人（死亡6人）である。

- (1) 業種別にみると、「建設業」24人（死亡5人）と最も多い。
- (2) 月別にみると、7月が17人と最も多く、次いで8月が12人、6月が6人である。
- (3) 時間別にみると、16時台が9人と最も多く、次いで14時台が8人、15時台が6人である。
- (4) 年齢別にみると、40代が14人と最も多く、次いで30代・20代が各7人である。
- (5) 休業別にみると、1週間以内が12人と最も多く、次いで2週間以内が9人、3週間超1ヵ月以下が7人である。
- (6) 症状は様々であるが、手足のけいれん、ふらつき、めまい、意識不明、気分不調、嘔吐等である
- (7) 発症場所は、屋外がほとんどであるが、調理場、クリーニング工場等もある。また、帰宅後に発症する場合もある。

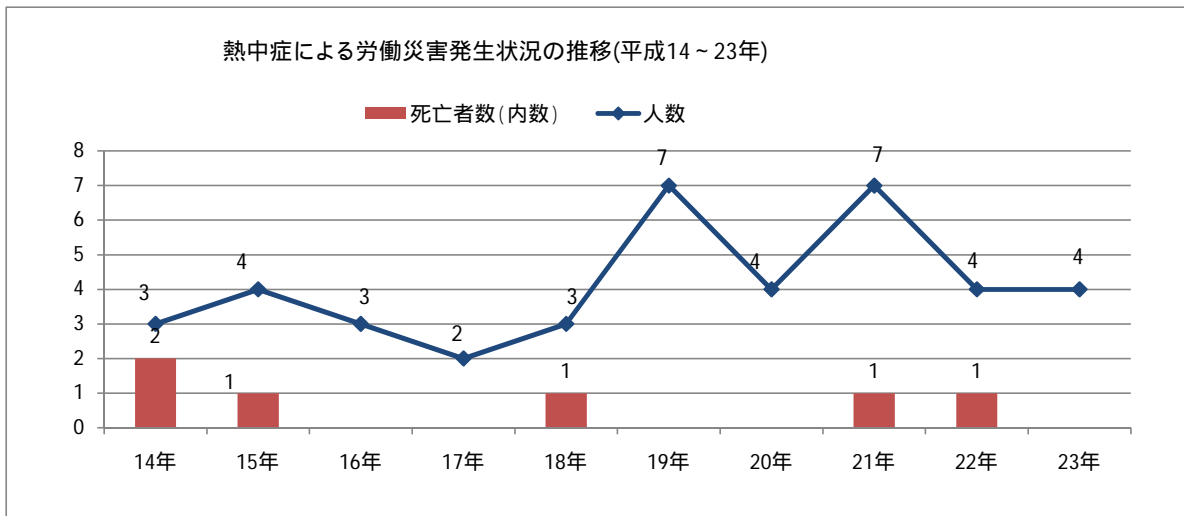
沖縄地方3ヵ月予報

- (1) 6月 平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
- (2) 7月 平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
- (3) 8月 平年と同様に晴れの日が多いでしょう。気温は、平年並または高い確率ともに40%です。6月から8月の気温・降水量は平年並み

職場における熱中症の発生状況(沖縄) (休業4日以上)

1. 熱中症による労働災害発生状況の推移(平成14～23年)

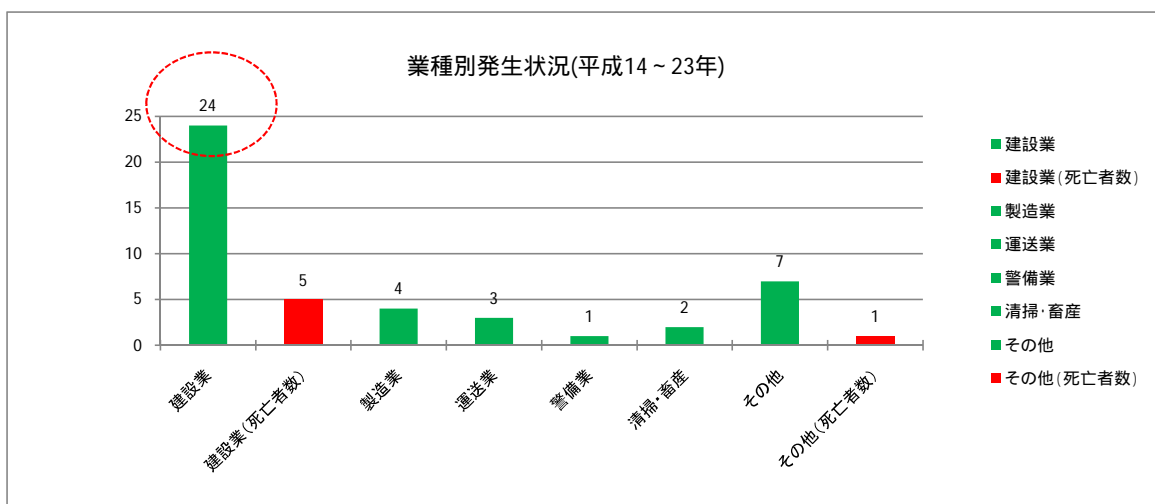
年(平成)	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	計
人数	3	4	3	2	3	7	4	7	4	4	41
死亡者数(内数)	2	1			1			1	1		6



2. 業種別発生状況

業種	建設業	建設業(死亡者数)	製造業	運送業	警備業	清掃・畜産	その他	その他(死亡者数)	計	死亡者数(内数)
平成14年	3	2							3	2
平成15年	3	1	1						4	1
平成16年	3								3	
平成17年	1					1			2	
平成18年	2	1			1				3	1
平成19年	4						3		7	
平成20年	1		1			1	1		4	
平成21年	4	1	1	2					7	1
平成22年	1		1				2	1	4	1
平成23年	2			1			1		4	
計(人)	24	5	4	3	1	2	7	1	41	6

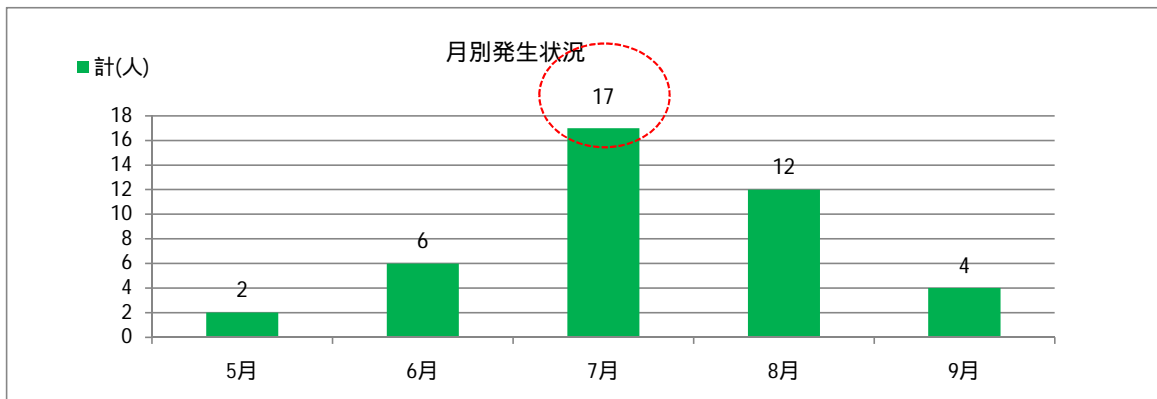
死亡者数は、その業種の内数である。



3. 月・時間帯別発生状況

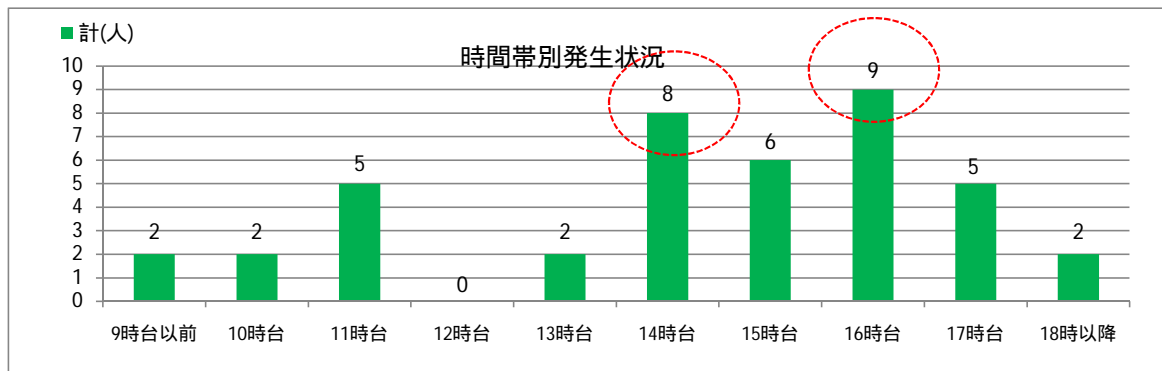
(1) 月別発生状況

月	5月	6月	7月	8月	9月	計(人)
平成14年			1	2		3
平成15年		1	2	1		4
平成16年	1		1		1	3
平成17年			1		1	2
平成18年			1	2		3
平成19年	1	1	4	1		7
平成20年		2	2			4
平成21年		2	3	1	1	7
平成22年			1	3		4
平成23年			1	2	1	4
計(人)	2	6	17	12	4	41



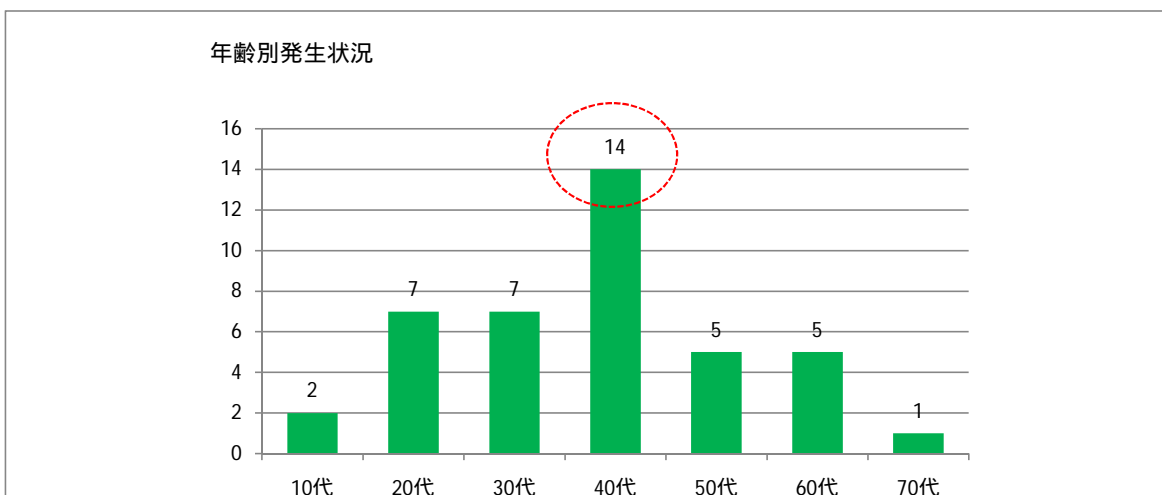
(2) 時間帯別発生状況

時間帯	9時台以前	10時台	11時台	12時台	13時台	14時台	15時台	16時台	17時台	18時以降	計(人)
平成14年									2	1	3
平成15年			1					2	1		4
平成16年	1							1	1		3
平成17年	1						1				2
平成18年						1	1	1			3
平成19年						1	4	2			7
平成20年			2			1			1		4
平成21年		1	1		1	2		2			7
平成22年		1				1		1		1	4
平成23年			1		1	2					4
計(人)	2	2	5	0	2	8	6	9	5	2	41



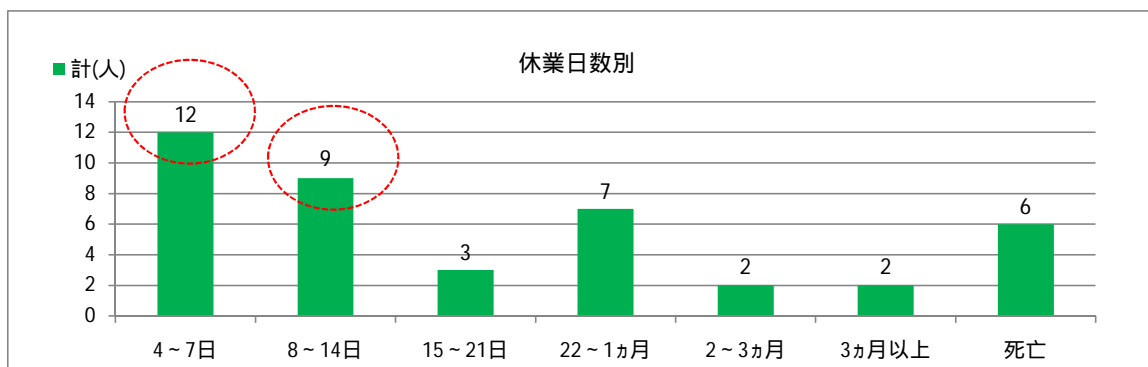
4. 年齢別発生状況

年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	計(人)
平成14年	1		1			1		3
平成15年			1	1	2			4
平成16年		1	2					3
平成17年			1	1				2
平成18年			1	2				3
平成19年		1	1	4	1			7
平成20年				2		1	1	4
平成21年		2		3		2		7
平成22年	1	2			1			4
平成23年		1		1	1	1		4
計(人)	2	7	7	14	5	5	1	41



5. 休業見込日数別

日数	4～7日	8～14日	15～21日	22～1ヵ月	2～3ヵ月	3ヵ月以上	死亡	計(人)
平成14年			1				2	3
平成15年		1			1	1	1	4
平成16年	1	1		1				3
平成17年		1		1				2
平成18年		1		1			1	3
平成19年	1	2	1	2		1		7
平成20年	1	1	1		1			4
平成21年	3	1		2			1	7
平成22年	3						1	4
平成23年	3	1						4
計(人)	12	9	3	7	2	2	6	41



沖縄労働局管内における熱中症災害発生状況(平成19年以降、休業4日以上)

沖縄労働局

番号	所轄署	災害発生日	業種	年齢	性別	被災程度	災害発生状況
20	沖縄(中部)	平成19年5月下旬	その他の接客娯楽業	50代	女	10日	午後4時頃、作業中、急に足首がけいれんし歩けなくなり、病院へ搬送された。
21	那覇(南部)	平成19年6月上旬	建設工事業	40代	男	4週間	午後3時頃、コンクリート打設作業中、ふらついている労働者を発見し、休ませていたが、改善の兆候無いことから病院へ搬送された。
22	名護(北部)	平成19年7月中旬	農業	30代	男	5日	午後4時頃、木の伐採作業中に、頭がくらくなり、立てる状況でなくなったことから、病院へ搬送された。
23	沖縄(中部)	平成19年7月中旬	その他	30代	男	12日	午後3時頃、土地改良事業工事現場において、作業中(台風対策)に急に意識が無くなり倒れたもの。
24	沖縄(中部)	平成19年7月中旬	建設工事業	40代	男	6ヶ月	午後3時頃、建設工事現場において、鉄筋組み立て作業中に突然崩れ落ちるように倒れこみ膠着状態となった。
25	名護(北部)	平成19年7月下旬	建設工事業	20代	男	1ヶ月	午後3時頃、型枠解体作業中に突然気分が悪くなり倒れたもの。
26	沖縄(中部)	平成19年8月上旬	建設工事業	40代	男	18日	午後2時30分頃、マンション工事の屋上階において、コンクリート打設作業中、気分が悪くなり、日陰で休んでいたものの、症状が改善しないため病院に搬送されたもの。
27	沖縄(中部)	平成20年6月上旬	林業	40代	男	1週間	午後2時30分頃、屋外で草刈作業中、目まいが出る等気分が悪くなり、一旦休憩し作業を再開。作業終了の午後5時頃手足の痺れ、痙攣が生じたため病院に搬送されたもの。
28	那覇(南部)	平成20年6月中旬	清掃と畜業	60代	男	16日	午前11時頃、屋外で交通誘導中、突然嘔吐し、意識が朦朧とした状態となり倒れたもの。
29	那覇(南部)	平成20年7月上旬	建設工事業	40代	男	2週間	午前11時30分頃、タンク内部での作業終了後、気分が悪くなり、意識が朦朧としてきたため、病院に搬送されたもの。
30	沖縄(中部)	平成20年7月中旬	クリーニング業	70代	女	43日	午後5時頃、作業終了し、買い物途中で吐き気が出る等気分が悪くなり、救急車により病院に搬送されたもの。
31	那覇(南部)	平成21年6月下旬	建設工事業	60代	男	1ヶ月	午前11時40分頃、建築工事の吊枠解体後のPコン取り作業中、体調が悪くなったので、水分、塩分を補給し休んでいたが、意識が朦朧となり、救急車にて病院に搬送されたもの。
32	那覇(南部)	平成21年6月下旬	建設工事業	40代	男	30日	午後4時頃、基礎型枠解体作業中、ふらつきが見られたので休憩室で休ませ、塩と冷水を摂取、体を冷やすなど行っていたが、急に体調に変化が見られ、救急車にて病院に搬送されたもの。

沖縄労働局管内における熱中症災害発生状況(平成19年以降、休業4日以上)

沖縄労働局

番号	所轄署	災害発生日	業種	年齢	性別	被災程度	災害発生状況
33	那覇(南部)	平成21年7月上旬	建設工事業	60代	男	6日	午後2時頃、屋内運動場R階コンクリート打設中、同僚が体調の異変に気づき休ませ、体を冷やすなど応急措置を行ったもの。
34	那覇(南部)	平成21年7月下旬	道路貨物運送業	40代	男	9日	午後2時30分頃、貨物ビルターミナルにおいて、貨物の積込作業中、水分等補給をしなかったため脱水症状を起こし、意識不明となり、救急車にて病院に搬送されたもの。
35	那覇(南部)	平成21年7月下旬	造船業	40代	男	7日	午前10時頃、船の外壁の塗装作業中、気分が悪くなり、病院に搬送されたもの。
36	那覇(南部)	平成21年8月中旬	建設工事業	20代	男	死亡	午後4時30分頃、住宅新築工事現場で、足場の解体作業中、気分が悪くなり休憩していたところ、倒れたので体を冷やすなど応急措置後救急車にて病院に搬送し治療を行ったが、翌日死亡したもの。
37	沖縄(中部)	平成21年9月上旬	道路貨物運送業	20代	男	7日	午後1時頃、作業中に気分が悪くなり休憩していたが、熱痙攣を起こしたので、救急車で病院に搬送されたもの。
38	那覇(南部)	平成22年7月中旬	建築工事業	20代	男	4日	午後2時頃、新築工事現場の型枠解体作業中、水分補給のため移動していた被災者がめまいを起こし倒れこんだもの。
39	那覇(南部)	平成22年8月上旬	飲食店	20代	男	5日	調理場において、水分等補給もせず作業を続けたところ、終了後の清掃等に、ふらふらしたもの。
40	八重山	平成22年8月上旬	林業	50代	男	死亡	午後4時頃、山中において、下草刈り作業を行っていた被災者が、倒れている状態で発見されたもの。当日の最高気温は32.4度であった。
41	沖縄(中部)	平成22年8月中旬	クリーニング業	10代	男	5日	作業中、体調が悪くなり、一旦帰宅したが、救急車で病院に搬送されたもの。
42	那覇(南部)	平成23年7月上旬	建設工事業	50代	男	1週間	午後1時30分ごろ配管工事において、足場の組立作業中に気分が悪くなったもの。
43	沖縄(中部)	平成23年8月上旬	土木工事業	40代	男	5日	午後2時40分ごろ街路樹の剪定作業において、剪定枝をトラックに積み込み作業中に気分が悪くなり、筋肉のけいれんを発症したもの。
44	八重山	平成23年8月中旬	その他の事業	60代	男	5日	午前11時ごろ街路樹の剪定作業において、剪定作業中に気分が悪くなり、倒れたもの。
45	那覇(南部)	平成23年9月下旬	道路貨物運送業	20代	男	10日	午後2時ごろ配送作業において、配送先で荷下ろし作業後に気分が悪くなり、寒気、吐き気、筋肉のけいれんを発症したものの。

本災害発生状況は、労働者死傷病報告による集計結果より作成されたものである。